

な か ま

目 次

○ 指導計画作成の立場	301
○ 活動計画例	303
○ 指導計画	305

1 指導計画作成の立場

(1) 基本的な考え方

近年の児童生徒たちを見ると、濃密な親子関係の中で大切に育てられてはいるが、様々な人々とのかかわりを持つ機会が少なく、適切に自己を主張すること等が不得手であり、そのため対人関係の円滑化に役立つ異年齢集団の積極的な導入の必要性が指摘されている。同様にこのことは本校の児童生徒においても言え、異年齢集団（経験、体力、能力、性別等に差異を持つ集団）の中で様々な人と接する活動をより多く体験していくことで同年齢中心の集団活動では味わえない「自己への気付き」が芽生え、自我の発達が促されるとともに、かかわり合いが豊かになると考えられる。

これまででも小学部高学年以上の児童生徒間では異年齢活動がなされており、児童生徒たちも同年代中心の学習とは異なった生き生きとした表情を見せたり、上級生が下級生を誘っていく姿が見られたりと自ら主体的に取り組もうという様子が見られつつある。しかしながら全ての児童生徒が相互に心ゆくまで興味・関心を十分に深めながら円滑な集団活動に取り組むまでには至っていない。したがって、小学部低学年から高等部までのより幅の広い児童生徒同士の触れ合いを密にするような活動を設定し、その機会と場を一層充実させることで、成員全員が積極的に楽しく活動に取り組むとともに、思いやりのあるかかわり方やリーダーシップ、フォロアーシップの取り方なども理解していくものとする。そこで、「なかま」の時間を設定していくこととした。

このような考えから、「なかま」においては、小学部から高等部までの異年齢集団を構成し、共に汗を流したり、喜びを味わったりしながら心ゆくまで活動に浸り、心の触れ合うような共通の様々な体験、活動を分かち合うような体験を積み重ねさせる。そして、相互の理解を深め、協力する態度を培わせることができる。また、それぞれの持つ特性を尊重しながら、与えられた役割を十分に果たしていくことにより集団の目標の達成水準も高まり、所属感や連帯感も一層深められる。さらに、より良い生活を営む上に必要な基本的な資質に関連する具体的内容（遊び、交際、役割、手伝い、仕事、決まり、自然）を習得し、状況に応じた意志の主張などができ対人関係も拡大できる。そのためにも、児童生徒が相互に親しんだり、様々な人々や自然に触れ合ったりするとともに、一緒に何かを作ったり、つくすことで喜んでもらったりなど成就感などが十分に味わえる活動に取り組ませていく。このような学習を通して、児童生徒は、「自分とは別の観点に立って考えたり行動したりする人の存在」に気付き、自己中心的傾向から脱却しようとし、集団における自分の立場や役割を理解し、欲求の調整の仕方も習得するなど自我の発達を促すことになる。そのことが、あらゆる活動の中でもかかわりを豊かにしていく力になるものとする。

「なかま」の時間の活動を進めていくに当たっては、児童生徒の実態等を十分に考慮したグループ編成や活動内容の設定を行う。そして、その活動の目指すものは、人とのかかわり方を中心として、集団生活を営む上で必要な基本的な資質等各領域・教科のねらいにかかわる幅広いものであり、活動も様々な要素を含んでいることから、「領域・教科を合わせた指導」の指導の形態として教育課程に位置付けるものとする。

(2) 目 標

- 異年齢集団のもとで、様々な体験活動を通して、成員同士が活動を分かち合うとともに相互に理解し協力して連帯感や所属感を深め、より良い集団生活を営むために必要な基本的な資質を伸長する。

(3) 指導計画作成上の配慮事項

- ① 児童生徒の興味・関心及び異年齢集団での活動に対する意欲を高め、相互の理解や協力を深めるような内容、地域との交流や社会性を伸ばすような内容を考慮して大まかにまとめた次の4つの活動を含むような活動を計画する。集団の実態等に応じて、1つの活動を中心的に設定したり総合的に含ませたりしていき、それぞれの活動が十分に活性化されるように配列していく。
 - ・ 親しむ活動（レクリエーション、なかまつくりなど）

児童生徒で各種の遊びを共にすることを通して、ゲームや遊びのルールの大切さを理解させるとともにかかわりを深め、心の交流を図り好ましい友人関係を育てる。
 - ・ 作る活動（玩具作り、絵画、料理など）

全員で協力して取り組み、共通の作品を最後まで根気強く完成させ、喜びと成就感を味わわせる。
 - ・ つくす活動（奉仕作業、美化作業など）

汗を流し、働き、みんなのためにつくすことの大切さを理解させ、教え合い、協力することの大切さを学ばせる。
 - ・ ふれあう活動（自然、地域の人々との触れ合いなど）

自然の中で児童生徒で様々な活動することを通して、人と自然との触れ合いを深めるとともに、自然を大切にすることを育てる。
学校周辺の人々との交流を通して、互いに助け合う態度、いたわり合う心、認め合う心の育成を目指す。
それぞれの活動では、児童生徒一人一人の発達状況を十分に配慮し、活動意欲の向上を図るとともに満足感、成就感を味わわせる活動を準備する。
- ② 領域・教科を合わせた指導の形態を取り、詳細な指導計画は各学期ごとに計画し可能な限り児童生徒の意見や希望を反映させるとともに各領域・教科の内容との関連を図る。
- ③ 自分だけでなく、周りの児童生徒の役割や行動に気付かせるように、かかわり合いの場面を多く設定することで、日常生活における異年齢交流に発展する可能性のある内容であることを考慮する。

2 活用上の留意点

- (1) 週に1時間を原則とするが、校外活動や製作活動を考慮して学期に一度まとめどり（3単位時間程度）をする。（年間31時間の予定）
- (2) 児童生徒一人一人の発達状況に応じて、具体的な役割分担などを通して活動の機会や場を設定する。
- (3) 活動を進めていく過程において、集団で活動する際の決まりやみんなで協力することの大切さに気付かせる。
- (4) 自我の発達段階を参考にしながら、グループを構成する。その際、学部間の児童生徒の数、男女比、教師の数等を考慮する。（グループ間等質とし、1年間継続して活動する。）

（現在、児童生徒72名、教官25名を8つのグループに分け、1グループ児童生徒9名、教官3～4名となっている）

平成4年度「なかまの時間」活動計画（例）

年間活動内容

1（いちご）グループ

月	5月	6月	7月	9月	10月	12月	1月	2月	3月
活動内容	・「なかま」について話 ・グループに分かれて自己紹介 ・グループ名の決定	○————○ ダンボール箱で遊ぼう、作ろう		うたおう おどろう	ゲーム大会 学校をきれいにしよう	栄門公園でクリスマス ・ゲーム ・遊び	○————○ ダンボール箱で遊ぼう、作ろう		お別れ会
主	親しむ	作る		親しむ	親しむ、つくす	親しむ	作る、親しむ		親しむ

2（チロリン）グループ

月	5月	6月	7月	9月	10月	12月	1月	2月	3月
活動内容	・「なかま」について話 ・グループに分かれて自己紹介 ・グループ名の決定	○————○ 玉里福祉館へ行こう (老人クラブとの交流) ・ゲートボール		○————○ 点字図書館へ行こう (利用、清掃、プレゼント、交流会)		○————○ 特別老人ホーム 福祉作業所へ 行こう (レクリエーション、プレゼント)		お別れ会	
主	親しむ	ふれあう、親しむ		ふれあう、作る、親しむ		作る、ふれあう、つくす、親しむ			

3（ジャイアン）グループ

月	5月	6月	7月	9月	10月	12月	1月	2月	3月
活動内容	・「なかま」について話 ・グループに分かれて自己紹介 ・グループ名の決定	○————○ 近所に花を飾ろう 苗うえ、植え替え、贈呈		○————○ 近所に花を飾ろう 苗うえ、手入れ、植え替え、贈呈		○————○ 近所に花を贈ろう 造花の製作、贈呈		お別れ会	
主	親しむ	親しむ、作る		親しむ	つくす、ふれあう	作る、ふれあう、親しむ		親しむ	

4（アイスクリーム）グループ

月	5月	6月	7月	9月	10月	12月	1月	2月	3月
活動内容	・「なかま」について話 ・グループに分かれて自己紹介 ・グループ名の決定	「栄門公園」に行こう (清掃、遊び)	「水遊びをしよう」 水てっぼうを作って遊ぼう	「学校をきれいにしよう」 学校内の清掃	「スポーツ大会をしよう」	「おやつを作ろう」 大学イモ焼き芋 ホットケーキ	○————○ みんなで合奏しよう 学習発表会で合奏 (練習、発表)		お別れ会
主	親しむ	つくす、ふれあう	作る	つくす	親しむ	作る	親しむ、作る		親しむ

5 (カレーパン) グループ

月	5月	6月	7月	9月	10月	12月	1月	2月	3月
活動内容	・「なかま」について話 ・グループに分かれて自己紹介 ・グループ名の決定	学校内 ○	外の清掃 ○		簡単なお菓子作り ・ジュース ・お菓子	地域のお年寄りとゲームボール ・栄門公園		自然と触れ合う活動 ○	お別れ会
主	親しむ	作る	つくす	作る	作る	ふれあう	親しむ	ふれあう	親しむ

6 (ウルトラマン) グループ

月	5月	6月	7月	9月	10月	12月	1月	2月	3月
活動内容	・「なかま」について話 ・グループに分かれて自己紹介 ・グループ名の決定	他のなかま ○	Gと交流 ○	公務員 ○	(国)との交流 手紙を書いて紹介	交流会 ○	公務員 ○	との交流 交流会 ○	お別れ会
主	親しむ	親しむ, ふれあう		ふれあう, 親しむ			ふれあう, 親しむ	親しむ	

7 (てんとうむし) グループ

月	5月	6月	7月	9月	10月	12月	1月	2月	3月
活動内容	・「なかま」について話 ・グループに分かれて自己紹介 ・グループ名の決定	ゲームをしよう 簡単なおやつ作りをしよう	水, 砂遊び 校外(健康の森公園)へ行こう 乗り物で遊ぼう	自作の ○ 計画	カレンダーを 製作	を 印刷	プレゼントしよう 製本	仕上げ	○ プレゼントしよう (地域の 人々) お別れ会
主	親しむ	親しむ, 作る	親しむ	親しむ, 作る, ふれあう, つくす					

8 (霧島) グループ

月	5月	6月	7月	9月	10月	12月	1月	2月	3月
活動内容	・「なかま」について話 ・グループに分かれて自己紹介 ・グループ名の決定	牛乳パックで ○ 計画 製作	船を作ろう ○ 製作 浸水式 プール遊び 反省会	野菜 ○ 計画 種蒔き	を作 草取り 水まき 手入れ	ろう ○ 出来た野菜で食事をしよう	学校周辺の ○ 周辺の清掃 ごみ箱の製作をしよう	探索をする ○ ごみ箱の設置(バス停)周辺へのピクニック	お別れ会
主	親しむ	作る, 親しむ		親しむ, ふれあう, 作る			ふれあう, 作る, つくす, 親しむ		

例1 「作る、親しむ」活動

活動名	郊外の公園に行こう		月(時数)	6月(1時間)	
目 標	○ 郊外の公園に出かけ、清掃することを通して、みんなと一緒に活動する楽しさを味わわせるとともに、協力してみんなのためにつくす喜びや満足感を味わわせる。				
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容		
<p>1 活動内容について話し合う。</p> <p>○ 公園の清掃をする。</p> <p>2 公園に行く</p> <p>・ 2人組</p> <p>3 公園を清掃する。</p> <p>○ 掃く。</p> <p>○ 落ち葉やゴミを拾う。</p> <p>○ ゴミ袋を持つ。</p> <p>4 反省をする。</p> <p>・ 頑張ったことなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団で活動する際のきまりやみんなで作ることを知らせる。 ・ 公園の写真や清掃の道具を見せることによって、活動内容を具体的に知らせる。 ・ 学校との移動の際は、安全に十分留意し交通安全に気を付けさせるとともに、できるだけ学部の違う2人組で手をつないで行くようにさせる。 ・ 児童生徒の実態に応じて係を分担し、上級生と下級生が共に協力してできるようにする。 ・ 児童生徒同士でうまくかわり合えない場合は、教師が中に入り共に清掃することによりグループのみんなと一緒に清掃できるようにする。 ・ 教師と一緒に活動したり、「きれいになるね」「上手に拾えるね」などの言葉掛けをしたりしながら、意欲的に活動できるようにする。 ・ 活動を振り返りながら、頑張ったことなどを発表し合ったり、お互いに賞賛したりして、みんなで公園をきれいにしたという喜びや満足感を味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵カード ・ 写真 ・ 庭ぼうき ・ ゴミ袋 ・ 庭ぼうき ・ ゴミ袋 	<p>国 2-5</p> <p>3-4</p> <p>4-6</p> <p>5-6</p> <p>生・健・安</p> <p>1-7-9</p> <p>生・役 2-5</p> <p>3-4</p> <p>生・手・仕</p> <p>1-1</p> <p>2-5</p> <p>3-5</p> <p>道 1-(3)</p> <p>2-(3)</p> <p>4-(4)</p> <p>国 2-5</p> <p>3-4</p> <p>4-6</p> <p>5-6</p>		

例2 「触れ合う、親しむ」活動

活動名	史跡見学・老人会との交流会をしよう	月(時数)	7月(4時間)
目 標	○ 身近な草木や生き物、地域の人々との触れ合いを通して、共通の体験・感動を分かち合い成員相互の理解と協力を深める。		
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関連内容
1 活動内容について話し合う。 ○ 史跡を見学する。 ○ 老人会と交流会をする。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の大きく2つに分かれる活動に見通しを持たせるために、関連する物等を提示する。 学校からの移動に際しては、安全に十分留意し、仲間意識を持たせるためにも2人組を作り歩かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> パンフレット スティック ボール 救急箱 	国 2-5 4-6 社 3-5
2 史跡を見学する。 (1) 説明を聞く。 (2) 史跡の中を歩く。	<ul style="list-style-type: none"> パンフレットを一人一人に用意し、見学するポイント等を児童生徒の実態に応じておさえさせる。 史跡の中の草木や生き物も適宜紹介し自然にも目を向けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> パンフレット 	理 4-10 生・自 2-5 3-6
3 老人会との交流をする。 (1) ゲートボールの練習を見学する。 (2) 老人会と一緒に実際に練習をする。 (3) 老人会と一緒に休息する。 (懇談)	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ老人会の練習を見学し、これからの活動の参考にさせる。 児童生徒の実態に応じて、教師が補助をし、楽しくプレーできるようにする。 老人会の方に実際に手を取って指導してもらう場を設定し、触れ合いを実感させる。 一人一人に感想を発表させ、本時の活動を想起させる。 	<ul style="list-style-type: none"> スティック ボール 笛 麦茶 	道 1-(4) 1-(5) 3-(4)
4 反省をする。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に感想を発表させ、本時の活動を想起させる。 		国 2-5 4-6

例3 「作る、親しむ」活動

活動名	船を作って遊ぼう		月(時数)	3～7月(7時間)
目 標	○ 牛乳パックを切ったり、組み合わせたり、つないだりする活動をみんなで分担して船を作ったり、出来上がった船に乗って一緒に遊んだりする活動を通して、協力して作り上げる喜びや作り上げた満足感、友達と一緒に仲良く遊ぶ楽しさを味わわせる。			
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容	
1 活動内容について話し合う。 ・ 船作り ・ 船遊び 2 船を作る。 (1) 作り方を知る。 (2) 牛乳パックを組み合わせる。 ① 牛乳パックの上部分を切り取る。 ② 2個の牛乳パックを組み合わせる。 (3) 牛乳パックをつなぎ合わせる。 ・ 2個 ・ 4個(2個×2) ・ 16個(4個×4) ・ 160個(16個×10) 3 船で遊ぶ。 (1) 進水式をする。 (2) 船競争をする。 4 反省をする。 ・ 楽しかったこと ・ おもしろかったこと	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒にできるだけ自主的に話し合わせる中で、教師が適宜言葉掛けをしたり活動例を助言したりする。 作り方の流れは、実際に行うことにより、具体的に知らせるとともに、工程を具体物を使って黒板に提示しておく。 学部の異なる2～3人ずつの組を作らせ、切る係や組み合わせる係など分担して協力しやすいように配慮する。 教師の援助は最小限にとどめ、上級生が下級生を援助するなど相互にかかわれる場を設定したり、言葉掛けをして促したりする。 テープを切る係、牛乳パックを押さえている係、テープでつなぐ係など児童生徒の実態に応じて分担する。 4個組ができれば、床に並べて徐々に船の形にしていき、「たくさんできたね」「大きくなるね」など言葉掛けをすることで意欲を高める。 床での作業など全員で取り組ませることで、友達と一緒に作る喜びを味わわせる。 プールに浮かべて1～2人ずつ乗せ、教師や友達で押して動かしてあげることにより楽しく活動させる。 2～3人のグループを作り、乗る人や押す人などを決めて競争させる。 楽しかったことを中心に協力したことや頑張ったことなど会食を交えながら話し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳パック 布テープ はさみ 牛乳パック 布テープ はさみ 簡易プール 作品の船 ビニールポット 水着 会食のおやつ等 	国 2-8 3-4 4-6 5-6 図・美 2-11 3-11 生・役 2-5 3-4 生・遊 3-8 道 3-(1) 3-(4) 道 2-(3) 4-(3) 生・遊 2-4, 5, 7, 10, 12 3-1, 6, 10, 1, 2 国 2-6 3-3	

例4 「親しむ、触れ合う、作る、つくす」活動

活動名	花をプレゼントしよう	月(時数)	5～7月(8時間)	
目 標	○ 自分たちで育てた花を近隣の公共施設や商店等にプレゼントすることを通して、友達と協力する態度を養い、みんなのためにつくすことの喜びを味わわせるとともに、大切さを分からせる。			
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容	
<p>1 活動内容について話し合う。</p> <p>(1) 近隣の公共施設等に何かすることはないか話し合う。</p> <p>(2) 育てる花を決める。</p> <p>(3) プレゼントをするところを決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちができることでお世話になっている近隣の公共施設や商店等になにかしてあげることはないか考えさせる。 ・ 今までに育てた花や図鑑等を参考に自分たちで決めさせるようにする。 ・ プレゼントする場所は、児童生徒がよく利用する場所や知っている場所、学校のすぐ近くの場所などとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図鑑 ・ 学校近隣の写真 	<p>生・社 2-9 道 3-(1) 4-(4) 理 4-8 生・自 2-4 3-2 生・役 3-4</p>	
<p>2 花を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 種まき ・ 鉢上げ ・ 栽培管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼント先の場所ごとに育てるグループを決め、そのグループで、種まきから鉢上げ、栽培管理をさせる。その際、学部の違う友達同士でグループを作り、互いにかかわりがもてるように、同じ活動を一緒にさせたり、役割分担をしたりなどさせ、活動のさせ方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種 ・ ビニールポット ・ プランター ・ 花札 	<p>国 3-18 4-16 図・美 3-11</p>	
<p>3 プレゼントの準備をする。</p> <p>(1) 手紙を書く。</p> <p>(2) プレートを作って、プランターに付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手紙も花を育てたグループごとに書かせる。 ・ 手紙の内容は、花の名前、育てた方法、大事に育てて欲しいことなどを自分たちで考えさせて決めさせるとともに、絵や折り紙などを工夫して飾らせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色画用紙 ・ 油性ペン ・ サインペン ・ 折り紙 		
<p>4 プレゼントを持って行く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員でプレゼントを持っていき、グループごとに手紙を読ませて渡すことでプレゼントする喜びを味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輪車 		
<p>5 反省をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼントした様子等を発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ VTR 	<p>道 4-(4)</p>	

例5 「触れ合う、親しむ」活動

活動名	地域の人々と交流会をしよう		月(時数)	9～2月(18時間)	
目 標	○ 地域の人々(公務員など)との交流会の準備をしたり、実際にゲームや運動をするなど交流会を実施したりすることを通して、みんなで協力し合う態度を育てるとともに、地域の人々との触れ合いを深めさせるようにする。				
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容		
<p>1 活動内容について話し合う。</p> <p>(1) 交流する相手を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公務員, お年寄りなど <p>(2) 交流会の内容を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲーム, 運動 調理など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域にどのような人々がいるか気付かせるとともに、交流する相手を誰にするか発表させる。(近隣の人々を中心に考えていくようにする) ・ 自分のしたいことを、自由に発表させる。 		<p>国 4-6 5-6</p>		
<p>2 交流会の準備をする。</p> <p>(1) どんなゲームや運動にするか、また調理の内容をどうするか決める。</p> <p>(2) ゲームや運動, 調理に必要な物を作ったり, 集めたりする。</p> <p>(3) 招待状, プレゼントを作る。</p> <p>(4) 交流会の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己紹介 ・ ゲーム, 運動など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで行ったゲームや運動, また作った調理などを思い出させるとともに, どんなゲームや運動, 調理にするか考えさせるようにする。 ・ 児童生徒一人一人に役割分担させながら, 協力して準備をさせるようにする。 ・ 招待状は, 一人一人対象の相手を決め, 書かせるようにする。 ・ ゲームや運動の内容が分からない児童生徒には, 互いに教え合うようにする。 ・ 交流会の進行や運営は, できるだけ児童生徒にさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボール ・ ラケット ・ 調理材料 ・ 調理用具 など ・ 色紙 ・ マジック ・ 色画用紙 ・ はさみ 	<p>国 4-6 5-6 図 2-10 3-11 4-10 5-6 生役 3-4 道 1-(4) 2-(5) 4-(4) 体 4-27 5-22</p>		
<p>3 交流会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームや運動 調理など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動を進めていく際においては, 児童生徒と相手の方, それぞれペアを組ませるなどして, スムーズに活動が展開できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カセット テープ 			
<p>4 反省をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しかったこと, 気付いたことなどの発表 ・ お礼状 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流会のことを思い出させながら, 楽しかったこと, 気付いたことなどを自由に発表させるようにする。 ・ 楽しかったことなどを絵や文にしながらお礼状を出すようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マジック ・ 色画用紙 	<p>国 2-15 3-15 4-16 5-19</p>		

例6 「親しむ、触れ合う、作る、つくす」活動

活動名	みんなで作ってプレゼントしよう	月(時数)	1～3月(12時間)	
目 標	○ プレゼントを共同製作したり、交流会を実施したりすることを通して、相互の理解を深めながら協力する態度を育てるとともに、協同活動で成し終えた満足感を味わわせ、他の人につくそうという心を養う。			
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容	
1 活動内容について話し合う。 (1) プレゼント作り ・ 作るもの ・ 共同製作 (2) 交流会 ・ 期日、場所	<ul style="list-style-type: none"> これまでの各学部の交流活動などを思い出させながら、児童生徒に自主的な話し合いを行わせる。 児童生徒の発言を中心とするが意見等出にくい時は参考作品や適切な助言を話し合いが進むように配慮する。 交流先はあらかじめ決めておき、相手の様子などVTRで見せることで具体的にとらえやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの交流会の写真やVTR 参考作品 カレンダー — VTR 参考作品 絵カード プレゼン トの材料 例(壁飾り) アクリル 色紙 マジック マカロニ 接着剤 スプレー プログラム — 友愛パス カセット アコーデ — 写真 VTR 画用紙 	<ul style="list-style-type: none"> 生・役 1-1 2-2 3-1, 2 図・美 2-1 5-1 2-7 5-4 3-11 4-11 道 1-(4) 2-(5) 4-(1) 4-(4) 社 4-6 5-5 生・決 1-7 2-8 3-4 社 4-1 5-1 国 2-6 4-4 5-4 	
2 プレゼント作りをする。 (1) 作るものを決める。 (2) 作り方を知る。 (3) 製作する。	<ul style="list-style-type: none"> プレゼントは児童生徒一人一人の意見や実態を考慮した上で決めるようにする。 できるだけ児童生徒同士が一緒に作ったり、上級生が下級生を援助したりするような場面などを設定し相互にかかわれるようにする。 良くできた児童生徒などを賞賛するなどして活動に意欲的に取り組めるような言葉掛けを行う。 			
3 交流会をする。 (1) 準備をする。 (2) 交流会に行く。	<ul style="list-style-type: none"> 交流会を実施するために必要な係などを児童生徒の意見や実態などを考慮して分担しそれぞれが役割を果たすような場を設定する。 交流会の進め方などはこれまでの経験を生かして話し合い、見通しを持ちやすいようにする。 			
4 反省をする。 ・ 頑張ったこと ・ 楽しかったことや良かったこと	<ul style="list-style-type: none"> 交流する相手に対する接し方等についても実態に応じて指導する。 それぞれの良い点を認め活動に取り組んだ満足感や成就感を味わわせる。 			